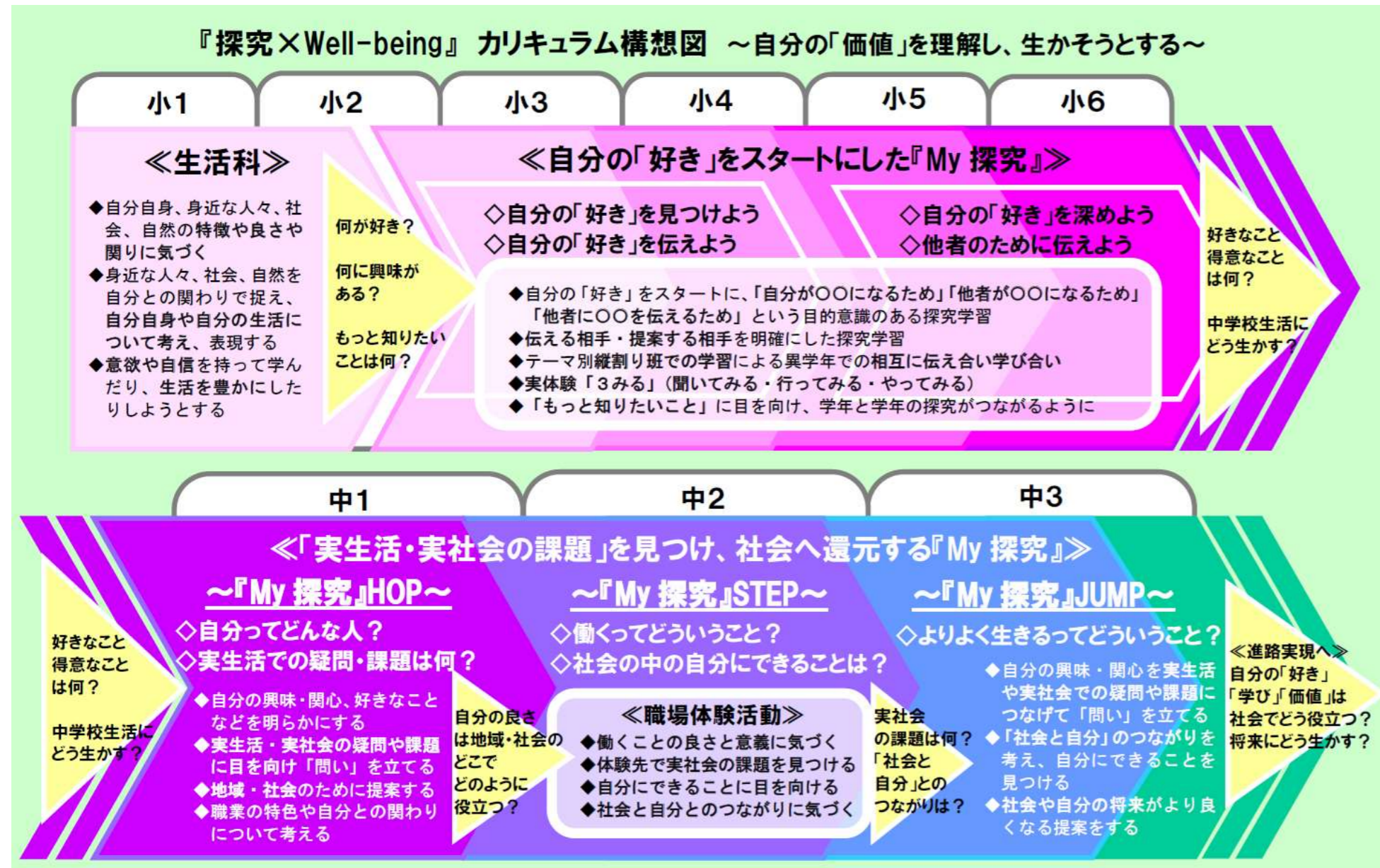


1. 向原中学校区の「My 探究」



『探究 × Well-being』

- 探究的な学習を通して、自ら見つけた課題を、自分事として考え、他者とつながりながら解決する児童生徒を育成する。
- 探究的な学習を通して、自分の「価値」を理解し、実生活や実社会で生かそうとする児童生徒を育成する。

自分自身、友達、家族、身の周りの人、地域・社会、自分の将来…
みんなが より良く より心地よくなる

向原小学校の「My 探究」

- ◆チーム担任制
- ◆縦割り班での個人探究

自分の好きを見つけ・深める「My 探究」

「自分」「他者」のためにどう生かすか

発達段階を越えた関わりで「My 探究」を進める

個人探究は小3から始まります。学年が上がるにつれ、自分の「好き」や「得意」を、他者のためにどう生かすかを考え、探究の質を上げていきます。小3から小6でのチーム担任制により、総合的な学習の時間を同時に行うことが可能となり、異学年の児童が、発達段階を越えて関わり合いながら探究を進めています。

向原中学校の「My 探究」

- ◆批判的思考力を働かせた対話・協議

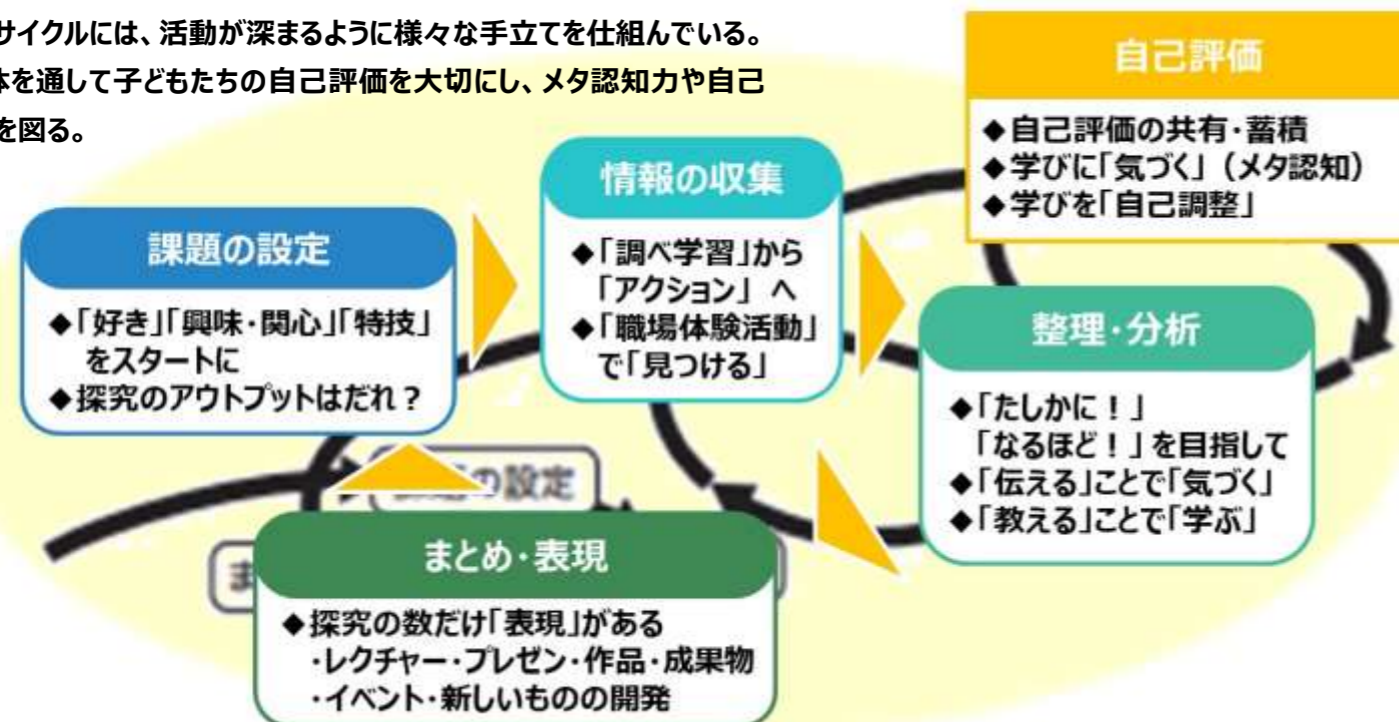
自分の興味・関心に基づいた「問い」

「地域・社会」につなげていくことを目指した My 探究

思考力・判断力・表現力の育成

「興味・関心」を深めることで終わらず、探究によって明らかになったことを「地域・社会」に役立つよう提案することを目指しています。また、互いの探究について、対話や協議をする時間を意図的に設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図っています。

■「My 探究」のサイクルには、活動が深まるように様々な手立てを仕組んでいる。また、単元全体を通して子どもたちの自己評価を大切に、メタ認知力や自己調整力の向上を図る。



■中学校区で育成を目指す資質・能力に沿って「My 探究」のルーブリックを作成し、指導と評価の指針とする。（下図は中3のB評価のルーブリック）

- 『表現力』**
 - 十分な検証や調査をもとにした客観的で説得力のある根拠を示して表現している。
 - 「My探究」をもとに地域・社会のために、具体的な行動で表現している。
- 『主体性・協働性』**
 - 自分の意志で地域・社会の課題の解決に取り組み、自分の興味・関心を地域・社会で生かす方法を考えている。
 - 自他の改善点を伝え合い、アドバイスをし合いながら課題の解決に取り組んでいる。
- 『先見力』**
 - 検証・調査及び分析の方法や手順を見直し、改善しながら探究活動を深めている。
 - 探究活動を通して得た知識や技能を、自分の将来に生かそうとしている。

3. 向原中学校の実践



アウトプット対象
の設定

■「My 探究」をアウトプットする相手を明確にする。



こちらの図は、それぞれの発達段階の「My 探究」を「だれに伝え」「だれの役に立てていくのか」を系統的に示しています。小学5・6年生からは、相手意識をもった「My 探究」へとレベルアップを目指し、中学1年生からは、視点を「地域・社会」に向けていくことにしています。アウトプットの対象を示すことで、「My 探究」のゴールを明確にしました。



振り返りの
共有と蓄積

■育成を目指す資質・能力を観点とした自己紹介パターンを示す。

- 自己評価パターン① 「今日の授業でわかったことは？」
⇒授業での学びを表現する『表現力』
- 自己評価パターン② 「誰とどんな話をした？」
⇒他者との関りから学ぶ『主体性・協働性』
- 自己評価パターン③ 「もっと知りたいことは？」
「次の授業でやることは？」
⇒目標に向かって計画的に行動する『先見力』

自己評価には3つのパターンを用意しています。それぞれのパターンは、育成を目指す「資質・能力」と意図的に関連させています。生徒は、3枚のカードの中から、自分の学びに合った1枚を選び、自己評価を書いて提出します。

自己評価パターン① 『表現力』	自己評価パターン② 『主体性・協働性』	自己評価パターン③ 『先見力』
<p>授業番号 ① 1 今日の授業でわかったことは？</p> <p>学習課題：自分の“うまみ”を生かした「問い」を解決することで、地域の誰が喜ぶ（役立つ）だろうか？（「問い」を考えよう）</p> <p>振り返り： よくゲームやスマホを見たりする人に役立つと思った。いろいろ実験したいことが出てきたのでどれだけ消費量をを抑えられるかを意識して取り組みたいと思った。</p> <p>理由を書いて 具体的に書いて 守りたい！</p>	<p>授業番号 ② 2 誰とどんな話をした？ (参考になった意見は？)</p> <p>学習課題：設定した「問い」・検証方法は、適切・有効だろうか。</p> <p>振り返り： 議論と話し合ってみて思いつきました。「すでに答えが出るよ」とか「定義はなに？」など改善したほうが良いところは見つけたけど、どうコーチングをしたらいいのか、どう話し合えばいいのかが全然見当がつかなくて大変でした。もう1時間あるので今日話が終わらなかったりしたところを話していきたいです。</p> <p>理由を書いて 具体的に書いて 守りたい！</p>	<p>授業番号 ③ 3 もっと知りたいことは？ 次の授業でやることは？</p> <p>学習課題：自分の“うまみ”を地域・社会につなげる「問い」とはどのような「問い」だろうか？</p> <p>振り返り： 今回は、自分の興味と地域社会のつながりをもとに、テーマを考えました。今回は、去年の職場体験を下にしたテーマを考えることができたので、次は、僕が興味のある自然科学のテーマの課題で、地域社会とつながるものを考えていきたい。</p> <p>理由を書いて 具体的に書いて 守りたい！</p>

自己の学びを客観的に理解することができている自己評価を選び、次の授業の始めに共有します。

- ◆「良い自己評価」に触れる ⇒ メタ認知力の向上
- ◆他者の学びやとらえ方を知る ⇒ 多角的な思考力の向上



批判的思考力
を働かせた
対話と協議

■他者と協議する機会を意図的に設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

- 「問い」や検証方法は適切だろうか？
- 「My 探究」を「他者への提案」へと進化させるには？
- 事業所への提案をより良くするには？

視点を持って協議することで批判的思考力をきたえる



授業【1】 吉田高等学校探究科の生徒との共同授業「吉高生から学ぼう！」（年2回）

- ◆「問い」「検証方法」を高校生にプレゼンする
- ◆高校生からの質問に答える
- ◆高校生からの指摘や助言を受ける

高校生の批判的思考力に触れる
自分の探究への理解が深まる
「My 探究」を改善する

隣接する県立吉田高等学校との連携により、さらに高度な学びへの接続を図っています。身近な先輩である高校生の姿は、中学生にとって「未来の自分」の具体的なロールモデルとなり、「もっと学びたい」「探究をレベルアップさせたい」という学習意欲の向上につながります。

授業【2】 中1 & 中3の共同授業「3年生から学ぼう！」

【事前準備】

- ◆3年生⇒1年生の「My 探究」を“予習”する
- 【当日】
- ◆1年生⇒3年生に「My 探究」をプレゼンする
- ◆3年生⇒1年生にコーチングする

1年生・3年生
それぞれが
「My 探究」を改善する

【3年生の自己評価より】



授業番号 1 3	1 今日の授業でわかったことは？	授業番号 1 3	2 誰とどんな話をした？ (参考になった意見は？)
学習課題：（1年生の）「問い」は「他者」の役に立つ提案につながる「問い」だろうか。中どのように改善すればよいだろうか。	振り返り： 今回は、1年生とのコーチングをやる。質問を返すのが難しかった。答えを自分で考えてもらうのを難しくして「どうするの？いんちきじゃない」とか「どうすれば？」と答えたいものを言うことが多かった。そこは、改善が必要だった。1年生のテーマは得意にならないうえに、自分のテーマの性質はともなういいなと思った。うーん、いい思い出。私のテーマは、物事に繋がる方法がいまいちなので1年生との話し合いをよまえて少し考えてみようと思えました。	学習課題：（1年生の）「問い」は「他者」の役に立つ提案につながる「問い」だろうか。中どのように改善すればよいだろうか。	振り返り：1年生と話をし、自分の問いについては主観的に見てしまうけれど、他者の問いについても客観的に見ることができたので、自分の問いにもつながるところがあったりして、自分の検証方法も関係性だったりする改善点も一緒に見つかることができました。自分だけで問いを考えるとどうしても問題意識が浅くなってしまっているので、問いや検証方法もまた色々改善していきたいです。

下級生にアドバイスするためには、自分自身が探究のプロセスを理解していなければなりません。3年生は「教える」ことによって学びを深めます。この授業では、1年生と3年生の両方が「My 探究」の進め方を改善することを目指しているのです。

■自己評価カードを探究のサイクルに沿って整理し、蓄積することで、「My 探究」全体の見取りに結び付ける。

	「My探究」JUMPポートフォリオ			
課題の設定	①	②	③	④
情報の収集	⑤	⑥	⑦	⑧
整理・分析	⑨	⑩	⑪	⑫
まとめ・表現	⑬	⑭	⑮	⑯

9回目の授業で、「整理・分析」に進んだが、「吉高生から学ぼう①」以降、「情報の収集」の段階に戻っている。
⇒探究のサイクルを行ったり来たりしながら探究を進めている。

この生徒のポートフォリオでは、9回目の授業で「整理・分析」に進んだものの、高校生との共同授業以降、「情報の収集」の段階に戻っています。つまり、生徒が探究のサイクルを行ったり来たりしながら探究を進めていることを見取ることができます。このように、自己評価を蓄積することが、探究活動全体の見取りにつながり

4. キャリア教育との融合 ～向原中学校「My 探究」STEP～

■各学年の「My 探究」を HOP/STEP/JUMP と整理したカリキュラム



職場体験活動を探究のサイクルに有機的に組み込み、探究活動をキャリア教育のより一層の融合を図る



「My 探究」STEP は、探究活動とキャリア教育を融合させることを目指したカリキュラムであり、職場体験活動を「情報の収集」と位置づけたことが特徴です。生徒は、職場体験活動での事業所での体験をもとに、課題を設定し、解決策を考え、事業所や利用者のために提案したり、成果物を届けたりすることをゴールとしています。

■職場体験活動を「情報の収集」に位置づけた「My 探究」STEP の単元計画

月	探究のサイクル	探究活動の内容
中1 3学期	課題の設定	・自分の「興味・関心」「好きなこと」を見つめ直そう。 ・自分の良さが生かせそうな事業所は？
中2 4・5月	情報の収集	・STEPの見通しを持つ。 ・職場体験活動の事前準備を行おう。
6月	情報の収集	・ 職場体験活動に行こう。
7月 ～ 10月	まとめ・表現 情報の収集 整理・分析	・各事業所に提案する準備をしよう。 ・各事業所に提案・表現しよう。 ・提案・表現を振り返り、改善しよう。
11月	まとめ・表現	・各事業所に提案・表現しよう。

中1の3学期には単元がスタートします。

職場体験活動は、働くことの意義を知ることに加えて、事業所や地域の課題を見つけることも大きな目的です。

職場体験で体験したり見聞したりしたことをもとに「仕事をもっと楽しくするには？」「仕事のむずかしさを解消するには？」「事業所をよりよくするには？」「自分の特技を生かして解決できないか？」という視点で「問い」を立て、それぞれが「My 探究」を進めます。探究を進める中で、事業所に電話で問い合わせをしたり、再訪問したりするなど、生徒は何度も事業所の方とやり取りをします。

■職場体験活動を単なる「体験」で終わらせず、だれかの役に立つ「提案」につなげる。

それぞれの生徒が、事業所やその利用者のために自分にできることを考え「My 探究」をやり切りました。様々な形の「まとめ・表現」をアウトプットし、その結果も確かめました。自分の良さや特技が社会の幸せに少しでもつながった喜びにもなったようです。

事業所	「問い」	まとめ・表現	結果
かがやき	もっと利用者さんを楽しませるには？	絵本の作成	事業所に渡しに行き、施設の本棚に置かせてもらうことで、利用者さんに喜んでもらえた
こぼと園	もっと園児さんを楽しませるには？	お楽しみ会を実施	園児さんを楽しんでもらえた
JA	農家さんの後継ぎを増やすには？	農業体験を定期的に行えるような提案を作成	事業所でプレゼンを行い、フィードバックをもらった
セブンイレブン	商品を前から取ってもらうには？	POPの作成	効果があり、商品を奥から取られることが減った
A マート	人材不足を解消するには？	A マートの魅力のポスターを作成	ポスターを店に掲示→従業員さんの意識改革につながった
大谷製作所	将来的な人材不足を解消するには？	人材募集のポスターを作成	人材不足の解消につながったかは分からないが、事業所から依頼されて町内に掲示した
ひとは福祉会	人材不足を解消するには？	アルバイト募集のポスター作成 オリジナルキャラクター作成	キャラクターシール、塗り絵を事業所に持っていき、喜んでもらった
和高醸造	和高醸造の商品をもっと多くの人に知ってもらうには？ 商品を買ってもらうには？	味噌バターレシピの作成	事業所からレシピの POP 作成を依頼され、作成したものが販売店で掲示された
マルサン	いろいろな国の従業員とよりよくコミュニケーションをとるには？	挨拶などの簡単なフレーズをまとめ、ポスターを作成し工場内に掲示	外国人従業員にアンケートを行ったところ、「働きやすくなった」と回答した人が増えた
向原小学校	学習ルームと図書室の利用者を増やすには？	ポスター、POPの作成	利用者を増やすことができた
向原薬局	薬局内の商品をどうすればもっと売ることができるのか？	商品紹介の POP 作成	商品の売り上げが上がった



おわりに ～「My 探究」で見つけた自分の価値を、自分の将来のパスポートに～

子どもたち一人一人の興味・関心や思いに寄り添いながら、探究の質も高めていくことは、簡単なことではありません。子どもたち自身も、大人（教師）も「揺らぎ」ながら、共に悩みながら、進んできました。これからも、子どもたちの学力を信じながら、彼らが思い描くように HOP・STEP・JUMP していけるよう、伴走していきたいと思います。

